

# 令和2年度～5年度使用 小学校用教科用図書採択理由書

宮崎大学教育学部附属小学校

教科用図書名 【 図画工作 】  
発行者名 【 日本文教出版 】  
教科書名 【 図画工作 】

<b>観点1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等</b>
(1) 図画工作科の目標を達成するために「みつけたり、くふうしたりすること」「かんじるとり、くふうしたりすること」「かつどうのなかでたのしんですること」の3つの目標で分かりやすく示されている。 (2) 低・中・高学年の発達段階に応じた題材が配列されている。6年間を通して同じ材料や用具に繰り返し関わるができるように構成・配列が工夫されている。 (3) 「造形遊びをする活動」「絵に表す活動」「立体に表す活動」「工作に表す活動」「かん賞する活動」の五つの分野が交互に配列されているため、子どもが多様な分野や題材の変化を楽しみ、興味・関心を高めることができる。
<b>観点2 内容や指導の充実</b>
(1) 子どもの製作活動の様子の中に、発想や構想・製作のヒントが示されており、主体的に造形活動に取り組むことができるようになっている。 (2) 多様な製作の様子が写真で示されており、具体的にどのような表現活動をするかが分かりやすく、造形的な視点の理解にもつなげることができる。 (3) 巻末には材料や用具の使い方などの説明が詳しく示されており、子どもが「知識・技能」を習得できるようになっている。 (4) 活動の写真には子どもの表したい思いや発想の広がりに関する吹き出し、多様な表し方を促す文などが多く示されている。示された写真や文などがきっかけとなり子どもの発想を広げ、「思考力・判断力・表現力等」を育成できると考えられる。 (5) 「図画工作のつながりひろがり」では各地域の造形イベントや伝統工芸、造形作家などが紹介され、「学びに向かう力・人間性等」を育成できるように工夫されている
<b>観点3 利便性の向上</b>
(1) 教科書のサイズが前回より大きいA4判となり、写真等が見やすくなっている。ページ数も増えており、全ての題材を見開きで扱い、題材を鮮明にとらえられるようにするなど、子どもの心に強く訴えようとする工夫がなされている。 (2) 表紙には「見つめて広げて」などの、発達の段階に応じたテーマが、低・中・高学年ごとに3種類書かれ、特に、教科名は書体や色が工夫された文字で書かれている。 (3) 巻頭には、迫力のある作品や各学年で取り扱う学習内容が大きく掲載されている。また、想像力を働かせ、新しい価値を創造してほしいという子どもへのメッセージが記述されているとともに、楽しく活動する子どもの写真や作品が大きく取り扱われ、教科への興味・関心を高めようとしている。 (4) 目次には、各題材が、五つの分野のどれに該当するか、アイコンによってすぐに分かるようになっている。また、用具のマークや、めあての説明、道徳とのつながりを示すキャラクターなどが提示され、一目で分かりやすい。
<b>観点4 地域の教育の特色や子どもの実態等</b>
(1) 学校や子どもの実態に応じて活動の仕方を考えられるように、一つの題材で屋内や屋外の活動等、複数の実践例が示されるなどの工夫が見られる。 (2) 5・6年(上)の教科書P54～55「地域とつながる」に、宮崎県の取組として、「笑みこし」が掲載されており、地域とのつながりを感じることができる。